事例No.	774
公表年度	H30
団体の属性	複数団体
団体名	兵庫県、公立豊岡病院組合

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・組織改革 ・公共施設活用

事例種類	市町村立病院間での再編・ネットワーク化（複数市町村）

事例内容・タイトル

兵庫県北部における周産期機能の集約化と機能分化

出典

地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集

病院：事例10

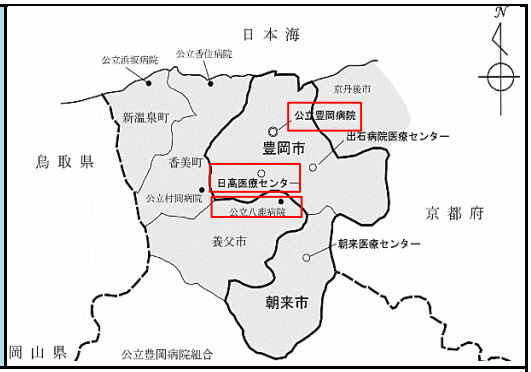
○ 事例名等

事例名	兵庫県北部における周産期機能の集約化と機能分化
団体名（病院名）	兵庫県　公立豊岡病院組合 （4医療施設を有する一部事務組合）

《再編・ネットワーク化の類型及びその概要》

類型	市町村立病院間での再編・ネットワーク化（複数市町村） 定住自立圏構想・連携中枢都市圏構想の活用事例
概要	兵庫県北部の分娩施設を有する公立病院（豊岡病院、日高医療センター、八鹿病院）で、機能分化を行うとともに医療資源の集約化による周産期機能の維持・確保を図った。

○団体・事業の概要

病院建物外観	豊岡病院 	構想区域の概要	
地域において担っている役割	【公立豊岡病院】地域周産期医療センターとして高度・専門的医療の安定供給を図り、ローリスク出産(妊娠・分娩)からハイリスク出産(妊娠・分娩)まで対応 【公立豊岡病院日高医療センター】妊婦健診への対応 【公立八鹿病院】妊婦健診及びローリスク出産への対応		

団体名（病院名）	公立豊岡病院	公立豊岡病院 日高医療センター	公立八鹿病院
行政区域内人口（人）	83,174		24,248
行政区域内面積（㎢）	697.55		403.06
事業開始年月日	明治4年7月1日	昭和22年9月1日	昭和21年10月
経営形態	公営企業法財務適用	公営企業法財務適用	公営企業法財務適用
許可病床数（病床種別）	518床(一般463床、感染4床、精神51床)	99床(一般63床、療養36床)	420床(一般358床、療養55床、結核7床)
稼働病床数（病床種別）	512床	63床(一般)	337床
診療科数	28科目	8科目	24科
特殊診療機能（※2）	ド・透・I・未・訓・ガ	ド・透・訓	ド・透・訓・ガ
指定病院の状況（※3）	救・臨・が・感・へ・災・地	輪	救・臨・感・へ・災・地・輪
看護配置	7：1	10：1	7：1
職員数(人)	812(事務職員52、医療従事者734、その他の職員26)	114(事務職員6、医業従事者101、その他の職員7)	587(事務職員59、医業従事者423、その他の職員105)
経常収支比率（%）	99.0	84.5	89.4
医業収支比率（%）	90.5	78.3	81.3
病床利用率（許可病床）（%）	88.8	25.3	60.7

※1　上記表中の「行政区域内人口」は、平成30年1月1日時点。「行政区域内面積」は、平成29年10月1日時点。それ以外の計数は、H30年3月末時点。
※2　ド…人間ドック　透…人工透析　I…ICU・CCU　未…NICU・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン
※3　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院
災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

(1)取組の背景

但馬地域は兵庫県の1/4の面積を有し、東京都全体に匹敵する広大な地域であるが、地域内の産科施設は豊岡病院、日高医療センター、八鹿病院の3施設しかない。また、産科医師も減少し、8名(H23年度時点)の医師により年間1,400件弱の分娩を行い、医師1人当たりの分娩件数は、全国平均の1.6倍となり、過酷な勤務状況となっている。

医師不足の解消が難しく、勤務医師の高齢化も進むことから、産科医療の崩壊を危惧し、市町長の間で協議がなされ、但馬地域における将来的に持続可能な周産期医療体制を検討する必要があるとの総意となった。

[以下の図表は「但馬こうのとり周産期医療センター検討会議報告書（平成24年3月）」より]

産科対応可能医療機関の概要　※平成23年4月1日現在

公立豊岡病院	日高医療センター	公立八鹿病院
産婦人科医師数　５名 小児科医師数　７名 助産師数　２６名 分娩室　３室 ＮＩＣＵ　６床 ・ハイリスク妊娠を含めた分娩に対応。 ・兵庫県の地域周産期母子医療センターに指定。 ・新生児医療では、主として院内出生児のうち、低体重出生児、呼吸障害児等の治療を行っている。 ・極度の低体重児、三つ子などの出産は神戸大学附属病院や県立こども病院へ搬送している。 ・助産師外来は実施していない。	産婦人科医師数　２名 助産師数　１３名 分娩室　２室 ・正常分娩に対応。（ハイリスク妊娠は、豊岡病院等に紹介している。） ・正常な妊娠経過をたどっている妊婦を対象に、助産師外来として妊婦健診、保健指導を行っている。	産婦人科医師数　１名 小児科医師数　１名 助産師数　１７名 分娩室　２室 ・正常分娩に対応。（ハイリスク妊娠は、他院へ紹介している。） ・助産師が妊婦健診を行う「助産師外来」と、助産師中心でお産を行う「助産師助産コース」を開設している。 ※院内助産数 H20年度　：　41件　H21年度　：　94件 H22年度　：　125件

医療機関ごとの分娩件数の推移(単位:件)

	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
豊岡病院	621	582	583	488	398	634	708	694	696	793	798
日高医療センター	523	530	519	532	533	470	410	381	337	349	352
八鹿病院	365	337	309	327	306	360	396	319	345	198	216
香住病院	166	159	176	164	149	H17 年度より分娩中止					
浜坂病院	50	38	H14 年度より分娩中止								
合計	1,725	1,646	1,587	1,511	1,386	1,464	1,514	1,394	1,378	1,340	1,366

医師数(産婦人科)及び一人当たり分娩数(単位:人、件)

		H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
豊岡病院	医師数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5
	分娩件数/一人	155.3	145.5	145.8	122.0	99.5	158.5	177.0	173.5	174.0	158.6	159.6
日高医療センター	医師数	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
	分娩件数/一人	174.3	176.7	173.0	177.3	177.7	156.7	136.7	190.5	168.5	174.5	176.0
八鹿病院	医師数	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	1
	分娩件数/一人	121.7	112.3	103.0	109.0	102.0	120.0	132.0	159.5	115.0	99.0	216.0
香住病院	医師数	1	1	1	1	1	H17 年度より分娩中止					
	分娩件数/一人	166.0	159.0	176.0	164.0	149.0						
浜坂病院	医師数	1	1	H14 年度より分娩中止								
	分娩件数/一人	50.0	38.0									
合計	医師数	12	12	11	11	11	10	10	8	9	9	8
	分娩件数/一人	143.8	137.2	144.3	137.4	126.0	146.4	151.4	174.3	153.1	148.9	170.8

（※医師数は年度末）

(2)検討を開始した契機・導入過程

時期	取組内容
平成23年4月	「但馬こうのとり周産期医療センター検討会議」を立ち上げるとともに、医療体制や施設整備における財源確保など具体的検討を行うための医療部会や財政部会を設置し、検討を実施。
	「検討部会(第1回)」但馬の出産を取り巻く現状について確認
平成23年6月	「医療部会(第1回)」医師及び分娩施設の集約化、医師確保、助産師の活用等について検討
平成23年7月	「医療部会(第2回)」分娩施設の配置について検討(分娩施設1か所集約案・2か所集約案について議論)
平成23年10月	「検討会議(第2回)」医療部会の報告に基づき協議
平成23年11月	「財政部会(第1回)」財源対策と費用負担について検討
平成23年12月	「医療部会(第3回)」周産期医療体制のあり方について検討
	「財政部会(第2回)」財源対策と費用負担について検討
平成24年2月	「検討会議(第3回)」報告書(案)について検討
平成24年3月	「但馬こうのとり周産期医療センター検討会議報告書」公表
平成25年11月	着工。
平成27年1月	竣工。供用開始。

【検討会議】
京都大学大学院教授、神戸学院大学教授、三重大学大学院教授、兵庫県理事、但馬県民局長、豊岡市長、養父市長、朝来市長、香美町長、新温泉町長、豊岡市医師会長、朝来市医師会長、養父市医師会長、美方郡医師会長、公立八鹿病院院長、公立豊岡病院病院長、公立日高医療センター病院長、元公立豊岡病院看護部長

【医療部会】
三重大学大学院教授、京都大学大学院講師、神戸大学大学院准教授、豊岡健康福祉事務所長、公立八鹿病院産婦人科部長、公立豊岡病院産婦人科部長、公立日高医療センター産婦人科部長、公立豊岡病院看護部長、豊岡市健康福祉部長、養父市健康福祉部長、朝来市健康福祉部長、香美町健康福祉部長、新温泉町健康課長

【財政部会】
豊岡市財政課長、養父市財政課長、朝来市財務課長、香美町財務課長、新温泉町総務課長、公立豊岡病院組合理事、公立豊岡病院管理部長

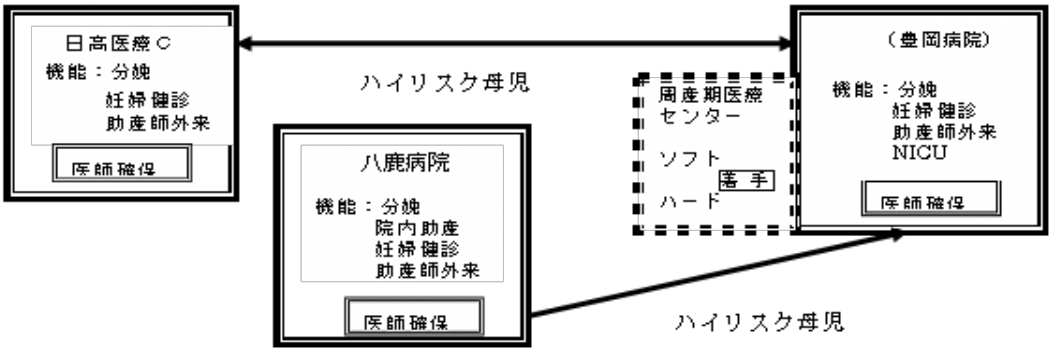
(3)関係者との調整
上記記載の各部会において、関係者と協議を進め、検討会議の報告書としてとりまとめを行った。

(4)人事・財務上の対応
財源として、①地域医療再生基金 ②合併特例債 ③一般会計出資債 ④病院事業債を活用した。また、但馬地域における定住自立圏構想の取り組みの一環として、事業推進のための財源に、関係市町に特別交付税が措置された。
【負担区分の考え方】
施設設備・機能充実分のうちハイリスク分娩については但馬全体で取り組む事業とし、全事業費の2割をハイリスク分とみなし、但馬3市2町が負担することとした。
【負担割合の考え方】
但馬地域の周産期医療体制の整備として、3市2町で①均等割1割(但馬の産科医療の崩壊を防ぐため但馬が1つとなり取り組む事業であること) ②受益割9割(分娩数により算出)の負担割合とした。

2．取組の具体的内容とねらい、効果

(1)取組の具体的内容とねらい

但馬地域で生み育てることが可能な周産期医療体制を維持するため、①分娩施設を北部(豊岡病院)と南部(八鹿病院)の2箇所とする。②八鹿病院ではローリスク患者のみとし、豊岡病院ではローリスクだけでなく全てのハイリスク患者を受ける体制を整備し、互いに連携する。③但馬で産科医確保を行なうために、中核病院である豊岡病院に、ハード・ソフト両面において医師にとって魅力のある周産期医療センターを整備し、マグネットホスピタルとしての機能を充実する。④周産期医療を支える助産師等医療スタッフの確保にも努める。



※日高医療センターは平成25年度より分娩取扱休止

「定住自立圏構想」による取り組みの概要(「但馬定住自立圏共生ビジョン」より)

但馬地域では、人口減少、少子高齢化が進んでおり、税収の減少や地域経済の縮小によって各市町の財政は厳しさを増し、行政サービスの維持などの課題が山積している。特に周産期医療については、圏域病院の医師確保が危機的な状況にあり、但馬で安心してお産ができる体制を確立することが、大きな課題となっている。

圏域内では産婦人科医師の不足が深刻化し、圏域住民への産科医療の提供に重大な支障を来している。そのため、関係市町長・大学医学部・医師会長・病院長及び兵庫県の参画を得て、公立豊岡病院組合を事務局として平成23年度に取りまとめられた「但馬こうのとり周産期医療センター検討会議報告書」に従い、但馬全体のハイリスク患者に対応するため、但馬こうのとり周産期医療センターを整備する。

(2)効果

産科崩壊が叫ばれる中、周産期医療センター(公立豊岡病院)での出産を希望された患者さんには里帰り出産を含め、全てに対応することができている。

【分娩件数】

(年度)	H24	H25	H26	H27	H28	H29
豊岡病院	1005	894	880	879	872	865
日高MC	69	0	0	0	0	0
八鹿病院	269	277	267	192	221	207

※日高医療センターは平成25年より分娩取扱休止

3．再編・ネットワーク化に取り組む上での都道府県の関与や役割

・兵庫県理事が「但馬こうのとり周産期医療センター検討会議」の委員として、周産期医療体制の検討に参加

4．他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点

・新専門医制度の開始に伴い、教育研修機能を強化するために指導医の確保が課題。一方、依然として医師確保は関連大学からの派遣に依存しており、大学医局の動向によって左右される不安定な状況である。

・周産期医療センター整備時にGCU(回復治療室)4床を設置したが非稼働。今後の患者動向を踏まえ、稼働を検討することとしている。

(2)今後の課題等

同上

○問合せ先

担当課	公立豊岡病院組合総務企画課		
TEL	0796-22-6111(内線2114)	MAIL	soumu@toyookahp-kumiai.or.jp